



まいどはや

エンダー ヌハミダー
ENDAH NURHAMIDAH

私は、今年で介護技能実習生三年目として、富山県の高齢者施設で働いています。毎日仕事しながら、日本語だけでなく、介護用語も覚えながら、富山の方言も勉強しはじめました。

昔、神奈川県で留学をした時に勉強をした日本語と違い、私にとって富山弁は全く新しい言葉に聞こえました。はじめて高齢者施設に来て、入居者様と話をしました。「こんにちは、インドネシアのエンダです」「よろしくお願いします」と自己紹介をしました。すると「まいどはや、よろしくお願いします」と言われました。私は、まいどはやという言葉をはじめて聞き、意味が分かりませんでした。職員の方に、「まいどはやは、こんにちはという意味だよ」と教えてもらい、早速他の入居者様に「まいどはや」と富山弁で挨拶をしてみました。今度は「きのどくな」と返事が返ってきて、また知らない言葉だったので、職員に「それはありがたいという意味だよ」と教えてもらい、こんなにも富山弁は言い方が違うのかと、驚きました。

ある日、私が入居者様をベッドから車椅子に移乗すると、その方は「お姉さんえらいね」と言われました。私は褒められたと思い「ありがとうございます」と返事をすると、不思議そうな顔をされたので、私の返事が違うのかと聞いてみると、「えらいは富山弁でしんどいとか、つらいという意味だよ」と教えてもらいまし

た。それは私が一生懸命介護をしている姿を見て、寄り添ってくれている言葉と知り、とてもうれしかったです。他にも「だいてあげっちゃ」と言われた時には一番驚きました。それは入居者様と「旬のマスカットが食べたいね」と話をしている時の事でした。急に男性の入居者様が「オレだいてあげるちゃ」と言われ、抱かれるのかと嫌な気持ちになりました。しかし、それはお金を出してくれるという意味で、勘違いをした私は、恥ずかしい気持ちと、うれしい気持ちになり、益々富山弁の面白さと、難しさに魅力を感じ、もっと勉強をしたいと思いました。

職員同士では富山弁をあまり使っていないけれど、富山県の特別養護老人ホームで、高齢者の方と関わる事がなかったら、こんなに富山弁を勉強することはなかったと思います。富山弁の意味を知れば知る程楽しく会話ができ、コミュニケーションもスムーズになったと思うので、これからも入居者様に積極的に声を掛け、私も勉強し、皆様が私と話をする事が楽しみと思ってもらえる介護福祉士になりたいです。

受賞の喜び



エンダー ヌハミダー

国 籍 インドネシア
職 種 介護
実 習 実 施 者 社会福祉法人神通福祉会
監 理 団 体 サイハン富山協同組合

この度、第33回外国人技能実習生日本語作文コンクールで最優秀賞を選んで頂き誠にありがとうございます。

3ヶ月程、結果を待ち、良い結果であるように、毎日神様にお祈りをしました。

結果は最優秀賞。驚きと感動が両方こみ上げてきました。また、表彰式が東京で行われると言う事で、東京へ行かせ頂ける事もとても嬉しかったです。

しかし、ここまで成長できたのは、自分だけの力ではなく、私に携わってくださった皆様のおかげです。本当に関係者の皆様に感謝しています。ありがとうございます。

日本に来る前に日本語ができれば仕事も楽にできると思って勉強をしていました。しかし、方言という壁に直面し、日本語だけではなく富山弁が分からないと利用者様との会話は難しいと思いました。毎日、工作中や自宅に帰ってからも、セカンドランゲージとして富山弁も勉強し始めました。最初は意味も言い方も違うので、勘違いが多く大変でしたが、勉強すればするほど面白く、実際に利用者様に使ってみると、通じるようになってきて、今では楽しく利用者様と簡単な富山弁で会話も出来ています。これからも、日本語と富山弁をスムーズに使える様に日々努力していきたいと思います。

このようなチャンスを作って頂いたJITCOの皆様に心から感謝します。本当にありがとうございました。

指導員のことば

この度、「第33回日本語作文コンクール」最優秀賞を受賞、おめでとうございます。

昨年も日本語作文コンクールに応募し、佳作に選出され、職員一同喜びを分かち合いました。でも、エンダさんはこの結果に満足されず「来年はもっと良い結果になるように頑張ります」と言っておられ、その向上心に感心させられた事を昨日の事の様に思い出されます。

そして、今年は有言実行で最優秀賞！結果を聞いた時、本当に嬉しかったです。

日本語だけでなく富山弁もマスターしようと努力する姿勢には本当に頭が下がります。そんなエンダさんだからこそ、輝かしい受賞に繋がったのでしょう。これからもさらなる飛躍を心から応援しています。

社会福祉法人神通福祉会 あすなろの郷 ユニットリーダー 西田 悦子